

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 安心院 高等学校	
学校教育目標	「明朗誠実、自発創造、協調奉仕」の校訓のもと「人間尊重の精神」を培い、地域や社会の一員として高い志をもって能動的に考え行動できる若者を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・「地域や社会に貢献する次世代リーダーの育成」を使命とし、そのための目標が明確に定められている。 ・校長をはじめ管理職のリーダーシップのもと、分掌ごとの役割が明確にされ、チームとしての運営ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球未来科」の充実・発展(地域連携・校種間連携・教科横断・課題研究など)を推進することで、学校教育目標の具現化を目指す。 ・校内会議・校内研修会を開催し、学校教育目標や「地球未来科」を通して身に付けたい力を明確にし、全教職員による教育活動を展開する。
	P D C A サイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・PDCAサイクルについては、分掌反省会議を毎学期行い、学校改善に取り組むことができています。短期的なサイクルのくり返しを通して、より機能的な取組がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌反省会議を学期ごとに行い、全教職員に還元することで、短期でのPDCAサイクルを確立する。 ・複数指導体制の確立、ミドルリーダーの育成を推進する。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・「地球未来科」の取組については、コロナ禍にあっても、オンラインを使ったバーチャルツアーの実施など工夫することで、社会との連携・接続を図る様子がうかがえる。 ・地域の住民・地域企業との連携がよくできており、生徒の卒業後の進路にもつながり、成果を出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の公開や発信については、回数だけでなく、内容の充実、周知方法の工夫・改善を行う。 ・アンケート(学期ごとに生徒、年1回の保護者・職員)を行い、集計結果を職員・学校評議員などに周知し、改善を図る。 ・安心院・院内地区で唯一の高校として、小中高の連携(説明会、研修会、地区懇など)や地域連携(自治体、企業、住民など)をさらに推進する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてPDCAサイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・教科や担当により差はあるものの、ほぼ全ての授業でICTが利活用されている。また、授業の内容・本日のめあてなどが全ての授業で明確にされており、授業形態にまとまりを感じる。 ・一人一台端末の活用については、生徒がより授業への興味・関心が持てるような活用方法を工夫することが求められる。ただし、従来の「紙に書く」「人と対面で話をする」「音読する」などの活動は今後も必要であり、効果的な活用をすることが望まれる。 ・地球未来科の実施、授業改善スクールプラン、授業アンケート、小学校から一貫したカリキュラムマネジメント、生徒による相互評価の実施など、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現にむけ、創意工夫している。今後は高評価授業の横展開を図り、さらなる授業の活性化を図っていくことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会を年2回(普通教科、専門教科)で実施している。喫緊の課題として、「ICTを活用した授業」の充実が挙げられ、指導教諭・情報担当を中心に授業改善を推進する。 ・上記に加え、「主体的、対話的、深い学び」の実践に向け、自己研鑽・各種研修会への積極的参加を勧める。 ・アンケート結果から、生徒の学習意欲・進路意識は着実に向上している。学習時間増・質の向上のため、具体的な課題・学習方法の指示、ICTを活用した家庭学習の指導などを工夫する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・生徒一人ひとりの面談やSC、SSWの活用を通して、細やかな指導がなされており、ほぼ全ての生徒が、ひとりひとり目標を持ちながら、学校生活を楽しく送ることができていることが伺える。 ・生徒数から教員が全員と年2回面談を実施するなど、目が届きやすいことから、いじめや不登校の早期改善が図られていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査・学習時間調査などを基に個人面談を実施している。少人数教育で個を大切にしたい、きめ細やかな指導を今後も継続する。 ・いじめアンケート・事後面談、外部人材(SC、SSW)の活用、関係機関(子育て支援課、福祉課、児童相談所など)との連携を今後も進める。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的な取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・電灯の必要な場所を確認し、特に冬期における下校時に安全上の問題がないように配慮される必要がある。 ・交通事故防止に関する授業が行われており、事故発生件数も少数に収まっている点は良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の安全点検は、今後も定期的に行う、不備や要望がある場合は速やかに確認し、改善を図る。校外での安全確保については、自治体・警察・消防・地域住民・保護者などからの情報収集に努める。 ・危機管理マニュアルの周知徹底。各種訓練(避難、消火、心肺蘇生)や研修会(交通、ネット、薬物など)の充実を図る。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年休取得率の上昇や、職員の意識改革による残業削減の効果があらわれている。担当分掌により多少の差はあるが、概ね改善されている。 ・部活動や手厚い学習支援のため、時間外勤務が多くなっている職員もいる。管理職がリーダーシップを発揮し、業務の効率化をさらに進めていくことが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での学校行事・諸会議などの見直し、ICTの活用や情報共有などで、年休取得日数は増加し、時間外在校時間も抑えられている。 ・分掌・進学指導・部活動によっては、負担の偏りが見られる。業務の効率化・複数指導体制の徹底・意識改革をさらに進める。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育を通して、地域に信頼される学校づくりを行い、定員確保に向けた取組が行われているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の魅力的、特色ある取組を行い、地域に発信しているか。 ・地域との連携、協力等を行い、郷土を愛し、郷土の発展に貢献する意欲・態度の育成が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育における体系的な連携システムや機能的な分掌を工夫し、担任、あるいは進路指導担当が一人で負担することのないようなシステム作りが必要である。 ・地域の期待に応える多様なカリキュラムと主体的な学びを維持、発展させるためにも、ICT活用と働き方改革の推進は不可欠であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展で、定員確保が厳しい状況にある。学校として、多様な生徒を大切に育て、「個別最適化された学び」の実現を目指す。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における社会情勢の変化や、それに伴う学校・教育現場の対応に日々錯綜する中、生徒の社会的自立をゴールに置きつつ臨機応変に対処している学校運営は、大変わかりやすく評価することができる。今後はすべての教員の資質向上のために一人ひとりのスキルアップや人材育成を念頭に置いた学校経営を工夫することが求められる。 ・地球未来科という地元根ざしたユニークな取組や、「主体的・対話的で深い学びができる環境」を維持、発展させるためにも、授業の活性化や働き方改革に一層注力していく必要がある。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の第三者評価でいただいた指導・助言を全職員と共有し、課題解決と改善に向けて、今後も組織的に取り組んでいく。 ・小中高を通じた地域独自教科である「地球未来科」の取組をさらに深化させ、協働的学習活動を通じて「主体的に学ぶ力」の伸長を図り、自ら課題発見・解決に取り組む生徒の育成を推進する。 ・次年度は、文部科学省教育研究開発学校の指定延長期間の最終年度となっており、その成果と課題を安心院・院内地区の連携校だけでなく、地域外の学校や地域住民に向けた発表会等で発信する。 ・ICT機器の利活用については、生徒だけでなく急激な環境変化に対応するための教職員側のリテラシー向上が必要であるため、組織的な見直しや各種研修会・外部講師招聘等の利用活性化を図る。 ・故郷を愛し、地域や社会に貢献する人材となるよう、今後も小中高連携を含めた教育活動を強化する。また、定員確保に向けて、本校の教育活動や魅力をホームページ、広報誌、学校説明会、地区懇談会などを活用し、地域内外へ広く発信していく。 			